











課題に対して、布ナプキンの寄付配布アクションを通じて取り組むプロジェクトです。 スリランカ

しずくスリランカは、スリランカの紅茶園の女性たちが抱える『貧困』『教育』『ジェンダー』という

皆さまからの ご寄付

& 送金 Amrita 株式会社

取りまとめ

Momiji Natural Corporation

Theva Residency Good Hope Trust (現地 NGO)

6日に、62名の紅茶園の女性たちに布ナプキン配布と、課題解決のための『シェア・ワークショップ』 を実施することができました。

2回目となる今回は、初回アクションをさらにブラッシュアップした、 ずくスリランカならではのシェア・ワークショップに重点を置いた実施となりました。

しずくスリランカ ワークショップ "TO SHARE" とは?

第2回目となる布ナプキンアクションでは、皆さまからお預かりしたご寄付をもとに、2023年8月

"TO SHARE"は、女性たちひとりひとりが抱え について語る経験はまずありません。

る生理にまつわる心と身体の問題について互いに 女性たちが話しやすい雰囲気を作る

シェアすることで、生理についての不安やスティグ ため少人数のグループに分かれ、生 マ(※社会・文化的な背景からくる差別・偏見)を解消し、 女性たちの心理的安定と健康・環境への情報選択を サポートするワークショップです。 これは発起人がスリランカで実際に体験した、女性 たちが公私に関わらず生理について口にする機会が 後の私たちのプロジェクト内容を考える上でに大

ほぼないということが元になっています。 宗教的・文化的背景から生理に対するスティグマが ローアップも可能になり、継続的支援に欠かせな 特 に強い紅茶農園の女性たちにとって、人前で生理

第2回支援報告•••

理にまつわる困りごとなどについて あらかじめシートに記入してもらい、 それをグループ内で共有し話し合う場としました。 このグループワークで出された様々な意見は、今

いに参考になると同時に、参加した女性たちのフォ いものです。

209,655 円 + 163,000LKR(スリランカルピー)

支出総額

寄付総額

 $22,768 \, \text{P}$ $85,133 \, \oplus$ 58,180 LKR

※ここに1回目残金66,280円+28,000LKRが加わります。

(2022年9月7日~2023年12月31日までに)

布ナプキン製造費

ン配布&ワークショップ "TO SHARE" を実施しました。

7月に第1回アクションが無事終了し、翌年のチャリティー イベントや第2回アクションの内容とスケジュール調整、

また、それに向けての PR活動のプランを練ります。

日本での PR 費

※残金:168,034円+132,820LKRは第3回目以降の支援活動に使用させていただきます。

現地輸送・

ワークショップ開催費

皆さまからお預かりした寄付金をもとに、継続的支援活動の実現に向けプロ ジェクト周知のための PR 活動を行うとともに、2023 年 8 月 6 日第 2 回目の

プロジェクト・アクションとして、合計 62 名の紅茶園の女性たちに布ナプキ

2022年

8月~

活動報告

第2回アクションまでの道のり

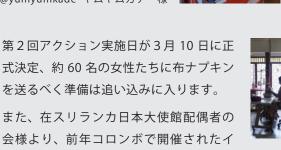
12月



@yumyumkade ヤムヤムカデー様 第2回アクション実施日が3月10日に正

イベントご協力:

会様より、前年コロンボで開催されたイ ンターナショナル・クリスマス・チャリ ご寄付いただきました。



2月16日水越日本大使夫人をはじめ 日本大使館配偶者の会の皆様が

イベントでの配布用に フライヤーなどの

1月 29 日、ヤムヤムカデー様主

催のしずくスリランカとのコラ

ボレーション・イベント "アユボ

部をご寄付いただきました。

広告ツールを製作しました



モミジ・ナチュラル・コーポレーションご来訪 実際にアクションで女性たちに配布するための

布ナプキン製造風景をご覧いいただきました

2023年

2 月

期することに。

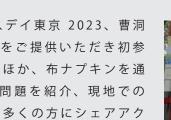
4 月

2023年

ティー・バザー (ICCB) の収益の一部を

アクション実施に向けて順調に準備が進ん は、曹洞宗が主催するシンポジウム「仏教× でいましたが、残念ながら中央州政府との SDGs×学び~出会いと行動・これからの学び~」 調整作業が頓挫し、実施直前でやむなく延 に、しずくスリランカ発起人の一人である山下千 朝が登壇、仏教徒と SDGs、女性の貧困と教育に 各方面で実施に向けての再調整が行われる中、 ついて、またその実 日本では、しずくスリランカを一人でも多くの 践としてしずくスリ

> ランカの活動を紹介 しました。 シンポジウムアーカイブ:https://www.youtube.com/live/0_Ymw_Ty2jQ?feature=share



その紅茶を作っている 女性たちの「貧困」 知っていましたか?

イベントご協力: @sotozen_mind 様 @yumyumkade 様 @and amrita @amrita_with @momijinatural

2023年

3月

4月 15・16 日、代々木公園で開催されたアースデイ東京 2023、曹洞 宗 Earth 禅堂様への協力参加という形でブースをご提供いただき初参 2023年

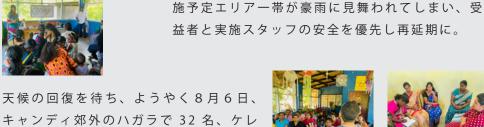
方に知っていただくため 3 月 25 日 Happy

Earth Day OSAKA 2023 に参加。また 31 日に

加。スリランカ雑貨や食品のチャリティー販売のほか、布ナプキンを通 じてスリランカの女性や生理の貧困にまつわる問題を紹介、現地での 我々の活動をパネル展示し、性別・年齢を問わず多くの方にシェアアク ションにご参加いただきました。

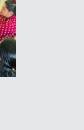
再調整と仕切り直しを経て、アクション実施日が

ボッカで 30 名、合計 62 名の紅茶農園 の女性たちに布ナプキンを届けました。



7月に決定します。ところが、今度は悪天候で実

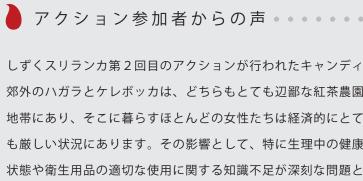




2023年

5 月~

/ 月



なっていました。

かれました。

2023年

8月

アクション参加者からの声

今回アクションに参加した女性たちはみな、その内容を高く

評価し、現場からは今後も同様の支援を期待する声が多く聞

郊外のハガラとケレボッカは、どちらもとても辺鄙な紅茶農園 地帯にあり、そこに暮らすほとんどの女性たちは経済的にとて も厳しい状況にあります。その影響として、特に生理中の健康 状態や衛生用品の適切な使用に関する知識不足が深刻な問題と

ハガラ

を使用した感想についても『質が高い』『何回も繰り返し使 える』『お財布に優しい』といった肯定的な感想があがり ました。女性たち一人ひとりが、有益な布ナプキンを無償で 提供してくれた日本のサポーターの皆さまに本当に感謝して います。ありがとうございました。 紅茶農園の女性たちより

また、多くの女性たちがワークショップで得た生理と布ナプ キンに関する知識を、他の女性たち(家族や友人、隣人)と 共有したと報告してくれました。その際、実際に布ナプキン

支援現場スタッフより 今回プロジェクトが実施されたハガラとケレ

ボッカは孤立した貧しい地域で、パンデミック

に続くこの国の経済危機により住民はさらに大

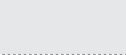
きな影響を受けました。日々満足に食べること

も難しく毎月生理用品を買う余裕のない女性た ちが多く、今回プロジェクトに参加した受益者

全員がワークショップと贈られた布ナプキンに

非常に満足しました。この地域に住む最も弱い





● 生理期間中の健康的な過ごし方と、布ナプキンの正しい使い方がわかりました

そしてこの知識を家族や友人にもシェアしました 66 生理用品の値段はとても高いので、今後ナプキンを買うお金を節約でき *** 経済的にとても助かります ** 私たちの日常生活で使いやすいように作られていて、とても役立っています >> 66 女性の生理は今まで隠されていましたが、今ではこれが自然なことで >> 隠すことは何もないと気づきました

に心から感謝します。ありがとうございました。 ディーシャナ・アマラセーカラ Good Hope Trust (現地 NGO) (Theva Residency)

でのお話の機会提供…など、支援やつながりのカタチには制限がなく、想いが紡がれてい くことをかみしめた2年間でした。

第2回アクションを振り返って・・・・

いただくことができましたことに、最初に御礼を申し上げます。

ついて本プロジェクトを通じて支援スタッフ一同、再度痛感いたしました。本来であれば、 慈善に基づく草の根の活動というものは、自由な意思の下に自発的に行われるべきもので すが、今回 2 回目の布ナプキン配布をする直前に、住民コミュニティや州政府の許可が下

りていないことを理由に、配布活動やSNSでの告知活動の自粛をせざるを得ませんでした。 布ナプキンの寄付配布を通じて、現地女性の貧困・教育・就労の機会を提供する――一見 すると誰からも異論のでない、社会的にも意義のある取り組みに思います。だからこそ、 現地で賛同するボランティアスタッフが集まり、皆様のご支援を経て短期間の間にプロ ジェクトが成立したのだとも感じます。しかし、布ナプキンや生理、そして女性が自立す るということに対する一部の住民や州政府の"無意識の抵抗"というものが、改めて浮き

布アクションに至った次第です。そのため、アクションの中ではより本質的なアプローチ として、プロジェクトのテーマでもある「シェア」をキーワードとしたワークショップの 開催に力を注ぎました。 「Pads Forward ―シェアすることで、誰かの未来が広がる」、を心にとどめながら、今後 も手探りでプロジェクトを続けていくことになります。いただいたご支援に対して、プロ ジェクトでの配布アクションの遅れが5か月間もでましたことに末尾ながらお詫びを申し

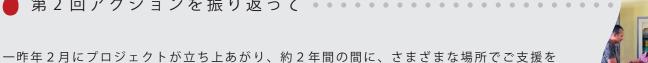
上げますとともに、長らくお待ちいただきました皆様の温かいお気持ちとご協力に感謝を

怒り・嘆き・あきらめ…、様々な感情がスタッフのなかに浮かびました。誰のためのプロジェ クトなのか、偽善の活動になっていないか…などの話あいと現地調整を経て、2回目の配

2024年1月吉日

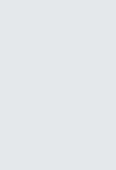
いたします。誠にありがとうございました。

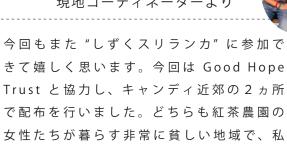
彫りになりました。





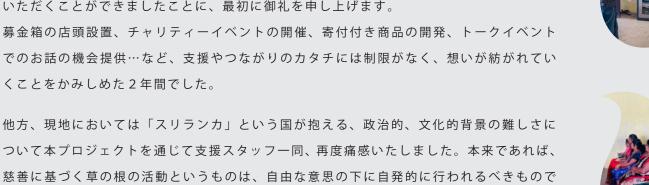






たちのプロジェクトは生理用ナプキンを買

う余裕のない彼女たちにとって大きな助け となりました。このような環境に優しい製



しずくスリランカ

山下千朝(Amrita 株式会社)

伊藤理恵(Momiji Natural Corporation)





ケレボッカ